

	新潟市教育委員会 平成18年3月 臨時会会議録			
日 時	平成18年3月30日(木) 午後2時00分			
場 所	市役所 第2分館 3階 教育委員会室			
出席委員 (5名)	高 山 委員長	欠席委員		
	白 勢 委 員			
	山 田 委 員			
	小 池 委 員			
	佐 藤 教育長			
会議に出席 した職員 (27名)	職・氏 名		職・氏 名	
	学校教育部長	加 藤 三 郎	小 須 戸 教育事務所長	田 沢 広 一
	生涯学習部長	佐 藤 信 幸	横越教育事務所長	神 田 弘
	総務課長	眞 島 幸 平	亀田教育事務所長	石 澤 正 明
	学務課長	遠 藤 良 二	岩室教育事務所長	山 上 光 男
	施設課長	関 尚 久	西川教育事務所長	市 橋 勝
	学校指導課長	伊 藤 充	味方教育事務所長	星 野 昭 生
	保健給食課長	片 田 幹 博	潟東教育事務所長	斉 藤 丈 男
	生涯学習課長	八 木 秀 夫	月潟教育事務所長	登 石 純 一
	青少年課長	伊 田 千 代 子	中 之 口 教育事務所長	宮 本 周 英
	体育課長	渡 辺 茂	巻教育事務所長	近 藤 義 衛
	歴史文化課長	渡 辺 ユ キ 子	総務課長補佐	斎 藤 仁
	新津教育事務所長	笹 川 正 文	総務係長	大 井 聡
	白根教育事務所長	櫻 井 文 一	総務課主事	山 際 幸 太
豊栄教育事務所長	吉 川 剛 史			
その他の出席 者 (名)				

開会	時 刻	午後 2時00分
	宣 言 者	委員長
選挙	議案番号	件 名
付議事件 (4件)	議案番号	件 名
	議案第61号	新潟市教育委員会組織規則の一部改正について
	議案第62号	人事案件について ・事務局の人事について
	議案第63号	新潟市教育ビジョンについて
	議案第64号	新潟市スポーツ振興基本計画について
報告 (3件)	記 号	件 名
		万代高校1期生の進路状況について
		平成18年度市立高等学校入学者選抜結果について
		花と遺跡のふるさと公園（史跡古津八幡山遺跡）内 にある復元竪穴式住居の火災について
その他 (件)	記 号	件 名

第1 開会宣言

○委員長 午後2時00分開会を宣言する。

第2 会議録署名委員の指名

○委員長 白勢，山田両委員を指名。

第3 付議事件

○委員長 議案第61号を上程，説明を求める。

○総務課長 議案第61号新潟市教育委員会組織規則の一部改正について，資料に基づき説明。

【説明概要】

4月1日の人事異動に伴い課に置く室に配置する職員の規定を改正することについて説明。

○委員長 質問，意見を求め，全員異議なく可決する。

○委員長 議案第62号について，人事案件のため非公開とし，会議の最後に審議したいと思います。

○全委員 全員異議なく了承する。

○委員長 議案第63号を上程，説明を求める。

○総務課長 議案第63号新潟市教育ビジョンについて，資料に基づき説明。

【説明概要】

教育ビジョン基本構想，基本計画の最終案について説明。

○委員長 質問，意見を求める。

○山田委員 一貫教育・一貫校の推進が平成18年度から20年度までの重点的な取組の一覧表の中に出ているわけですが，基本計画の中には一貫校の検討あるいは一貫校というのは，どこにも載って

いないのですね。そうしますと突然、重点的な取組みというところに一貫校という言葉が出てくるので、一貫校の取組みというのは大変大きな事業になるわけですが、それが基本計画の中にないということについては、おそらく表現の調整をしているなかでそうなったのでしょうか、やはり位置付けておく必要があるだろうと思います。しかし、全体をとおして一貫教育・一貫校の重要性については良く分かるわけですが、言葉としてきちんと述べておくことは大事だと思います。

○総務課長

貴重なご意見ありがとうございます。検討段階から推進と一歩進んだ形で基本計画の中で表現していけるようなかたちで考えたいと思います。

○委員長

理解を深めるという意味で少し確認をしておきたいのですが、ひとは「学・社・民」というこの言葉ですね。あまり耳慣れないのですが、民というのは社会教育に入ってきますので、「学・社」そしてさらに「民」を持ってきたのは、ひとつの大きな目玉なのですが、社会教育と民間教育というのですか、その辺の意図を聞かせていただきたいのですが。

○総務課長

従来、学・社の連携ということで、学校教育と社会教育の連携を深めるという言葉がありました。どうしてもその連携が互いにそれぞれの分野で連絡を取り合うというところで終わってしまうということで、それをもう少し発展的にしたほうが良いという観点があります。生涯学習の中に民間活動もというのはおっしゃるとおりで、明確な線引きが難しいということで検討委員会の中でも議論されたところなのですが、「民」という言葉をあらためて入れたのは、民間でボランティア活動の方々やNPOの方々などいろいろな団体が活動しているので、そういう人たちも一緒に学校教育と社会教育とは若干違う分野の人たちも一緒になって新しい教育をつくっていくことが良いのではないかということ、今までの範疇をもう少し発展的に考えようということでこの言葉をキーワードにしました。

○委員長

地域教育コーディネーターとういものについて、説明はあるのですが、イメージが浮かびにくいので、もう少しどういう仕事をする人なのか、説明していただけますか。

○生涯学習課長

地域の人材と学校を結ぶという意味でコーディネートをしていただくということで、具体的には、地域の優れた人材を学校の支援ボランティアとして学校の教育活動の中に入れていただくために、それらを結び付けていくという役割を担うものです。そのほか地域同士の連携とか教育機関と学校を結び付けていくというような役割もあるかと思います。

○委員長

学校支援ボランティアもあるし、地域教育コーディネーターもあるし、今ある学校評議員もあるし、学校と地域を結ぶ役割を持つ人たちがいろいろあり、その辺の区別がつきにくいような気がします。

○小池委員

私は今の生涯学習課長さんの説明を聞いてある程度イメージができるように思います。私もボランティア活動をやっていますが、ボランティアが個人ですと、どうしてもうまく機能しないのですね。ですからボランティアをまとめるときには、必ずボランティアのマネージメントをするコーディネーターという人が必要不可欠です。学校でも様々な活動をするボランティアで、それぞれ個々のボランティアは、限られた分野でボランティアをするわけですので、それを調整しないと学校の都合に合わなかったり、ボランティアとして入ってくる基本的なマナーや約束事を初めに打ち合わせて、理解していただくということが必要になってきます。それから各ボランティアグループの代表をまとめて学校に役立つために、どういう調整をしたらよいかという仕事が必ず必要になってくると思いますので、私はこの地域教育コーディネーターというものをそのようにイメージしていますし、それがうまく機能しないと学校におけるいろいろな人たちが入っての学・社・民の融合ということが、実現できないと考えています。

○山田委員

学校ボランティアであっても、コーディネーターのような立場の人がいないと、うまく動かないと思います。豊照小学校のふれあいスクールを視察したときに、その世話をやっていた方の説明を聞きましたが、こういう立場の方は、もう少し広く学校の内容を見るでしょうし、地域のあり方などを見て調整するようなことになるのではないのでしょうか。私の住んでいる地域で地域協議会の立上げを苦勞してやっています。休みの日ごとに

有志が集まっているいろいろ相談をしています。その中で代表の方が地域協議会の立上げのために、これが必要ですとか、ここの組織と連絡をとらないとだめですとか、学校の校長からも来てもらわないとだめですとか、といったような話をどんどん進めています。そういう中心になっている人がいないと現実には動かないだろうという気がします。このように、地域教育コーディネーターというのは、教育に的を絞った方を配置していくということなのではないでしょうか。現在どこかでやっている事例は、あるのでしょうか。

○生涯学習課長

笹口小学校でボランティアとしてのコーディネーターなのですが、学習支援ボランティアの数人をコーディネーターと称して、ボランティアの取りまとめをやっていきます。それは、学校側で教育活動や学校の環境整備に必要な項目について、それぞれの学校と地域の人材を結び付けていくというものです。

○委員長

昨年に視察しました杉並区の和田中学校にも同じように、校長と地域を結ぶキャップのような人がいて、いろいろな事をやって校長の信頼が大変厚かったというものでした。これを聞いてみたのも今回の教育ビジョンの目玉である学・社・民の融合の中心的な働きをするのが、この地域教育コーディネーターだろうと思いますので、その役割をきちんと皆さんが把握していないと、うまく進んでいかないと考えたからであります。

○白勢委員

多様な観点から検討されて、すばらしい教育ビジョンを作っていただいたことに敬意を表したいと思います。このビジョンによって新・新潟市の教育の方向とあり方が明確になったであろうと思います。特に18年度から20年度までの重点的な取組である5つの「学びの扉」は、これから実質3年間という極めて短期間で結果が見えるということになるわけですので、大いに注目されるものと思っております。私はこのビジョン自体には何の異存もありません。ただ、素人目でこのビジョンを何度も読ませていただきましたが、行政でごく普通に使われている専門用語が多くて、一般市民が一読したくらいでは全体像を理解するというわけには、いかないのであろうと思っております。このビジョンを一般市民にも示すものであるならば、語句の説明等工夫も十分にありますが、さらに丁寧な説明が必要であると思っております。前回との変更点では、一貫教育・一貫

校の「検討」を「推進」ということで、より積極的な姿勢を示したということは、とても良いことだと思います。私も小・中、高・大と一貫校で過ごしてきましたが、受験勉強に追いまかれることなく、のびのびと勉強やスポーツができたということは今でもとても幸せに思っております。早期の一貫校の実現を望みます。それから、ビジョンを具現化していくわけですが、具現化するのはこのビジョンを作ること以上にエネルギーがいることですので、よろしくお願ひしたいと思います。また、その進行管理をされる教育政策監という新しいポストができるということですので、そこにも大いに期待したいと思っております。

○山田委員

これだけのメンバーの皆さんがこれだけの回数集まり、論議をして作り上げたものとういことで、大変感謝申し上げますし、また内容的にも大変素晴らしいものができたと思います。特に、基本構想から目標があり、目指す方向があり、そして基本計画にいき、これから実施計画にいくということで、系統的なものになっていると思います。教育というのは間口が大変広く、何を話し合っても教育に関係するということで、逆に言うと何をやっているのか、どうしてそれを教育委員会がやるのかということになるわけですが、教育ビジョンが出来上がって、基本計画があり、実施計画ができていくと、今やっている仕事は、どういう子どもを育てようとしているのか、どういう市民のニーズに答えようとしているのかとういことが、全体の中に位置付いていて、大変よく分かるのではないかと思います。また、実施する人にとって大変張り合いになるということで、教育ビジョンが出来上がったことを大変うれしく思います。しかし、このビジョンが学校関係者にどう捉えられるか、逆にどう伝えていくのかということが、特に、確かな学力豊かな心・・・とういところに響いてくるのではないかと思います。荒川委員長さんも最後にお伝えになっておりますが、その意識化とういのでしょうか、一人一人が取り組んでいくときの意識をどう高めていくか、教育委員会事務局の大変な仕事になるだろうと思います。そのためにも実施計画の中には、具体的な数値で表せるところについては、出来る限り数値を出して、そうしないと、とかく教育というのは、ぼんやりと心温かにとというような方向に流れやすいので、それも大事なことです。数値でもってきちんと事業を組み、成果をあげていくことも、人々のニーズに

応えることではないかと思っています。特にうれしいのは、20年度までの取組の中にも出ておりますが、教育関係職員の研修プログラムの充実で、こういうことをきちんとあげて、特に子どもの教育について、最後は人に関わるので、その人をどう育てるかが行政課題になるのだということが明白に出ているのではないかと思います。こちらの用意する研修だけでなく教員が自主研修に向かっていく意識というのでしょうか、京都市の教育委員会を視察したときに、夜7時、8時に先生方が何百人も集まってきて、グループで自主研修をしているという説明を聞きましたが、そんな姿が教員の中に生まれてくれば、すばらしい成果が生まれるのではないかと、研修、教員を大事にしていくことが必要だなと思っています。

○小池委員

これだけの幅広い層から検討委員を選び、会合を重ねて、様々な方法で市民の意見を聞き、まとめたこのビジョンは、私たちが誇りにできるものだと感じています。ただ、一方では、思いを言葉で表現することの難しさということを痛感しております。書きつくせないもの、それから市民の意見は様々ですし、どこに重きを置きたいかということは、その市民が置かれている立場によって違うものがありますので、ここに書くことは当然絞らなければ個性は出ないですし、その絞ることの難しさも痛感しております。ただ、新潟らしさというものは、それなりに出せたのではないかと感じておりますし、この大きな目標のほかに18年度から20年度までの重点的な取組ということを具体的にここに盛り込んだということは、非常に評価できるのではないかと思います。このビジョンが出たことを市民に喜んでもらえるかどうかということは、この文章だけでは市民は、このビジョンを感じないと思うのです。具体的にこのビジョンができて良かったと市民に感じてもらうとすれば、身近な学校や公民館が変わったと感じてもらえた時であると考えます。どんなにエネルギーをかけて文章を練って、魅力的な文章にしたとしても、それだけでは決して評価されるものではなく、とにかく何か変わった、自分たちが参加できるんだ、自分たちの教育に対する思いを発揮できる場所が提供されたと思ったときに、市民がこれを評価してくれるのではないかと思います。そのとき初めて学・社・民の融合にある教育が進んだというふうに、評価できるのではないかと考えています。教育は、やはり人と人とのふれ合いの中でしか在り得ないと思うのですね。人

間力というものを育てるということが目的ですから。そのとき学校の中にも多様な人との関係が持ち込まれ、それが生徒にとっても教師にとっても刺激的な環境になって、自分から学ぼうという、お互いに刺激のある環境が作れるように、言葉ではそういう方向を目指すと書かれていますが、実際にそうなるように、学校教育関係者、社会教育関係者、民間の市民団体を巻き込んでやっていきたいと思います。評価について、教育は数値で評価することが難しい分野ですが、短期間で学力が上がったとか、下がったとか言えたとしても、そのことが10年後のその子の成長にどう生かされたかということの評価するのはとても難しいことなので、もちろん厳しく評価して数値目標も設定することは大事ですが、ある意味でそれは無理もあるということ承知の上で長期的展望に立って取り組んでいきたいと感じております。

○教育長

おっしゃるとおり数値目標をできるだけ入れていくようでないで、市民の方が見てもどのように変わっていくのか、イメージが湧かないのではないのでしょうか。できるものはできるだけ数値目標を入れていくというように実施計画の段階でやっていきたいと考えていますし、合併マニフェストなどとある程度整合性を持たせる必要がありますので、それも実施計画の具体的な施策を検討するときに、配慮していかなければと思っています。

○委員長

1年間21人の委員の皆様にご多大なご努力をお願いしまして、政令市新潟市に相応しい教育ビジョンが出来上がったということで、深く敬意を表したいと思います。高く評価すべき点として、ひとつは政令市に向けたマニフェストと呼応しているという点です。それから学・社・民の「連携」ではなくて「融合」という言葉が使われております。これは全国的にもおそらく例がないであろうと言われておりまして、全国に率先して学・社・民の融合という考え方を打ち出していること、それから現在の日本の教育課題のほとんどが盛り込まれておりまして、その対応すべき考え方がちゃんと示されている、さらにはそういった中からすぐに始めなくてはいけない課題をきちんと整理してくれている、つまり18年度から20年度の重点的な取組であります。そういった点が高く評価できることだろうと思います。非常に見識のある方向付けになっていると評価したいと思います。当然、これに対する批判も出てくるであろうと思いますが、

教育委員会としましては、この教育ビジョンを絵に描いた餅に終わらせないということが、大変大事であろうと思います。これから具体化するさらなる施策、方策、つまり実施計画をたてて、実行に移していくということが、一番大切な使命であろうと思います。その際、先ほどから出ております数値というものも、大きな柱になってくるのではないかと思います。当然、これで終わったわけではなくて、知恵もお金も必要になってくると思います。今後、9年をかけて随時検証しながら、何とか実現していかなければと、決意を新たにしているところであります。そして、市民の皆さんにご覧いただいて、深いご理解、これはなかなか難しいかもしれませんが、荒川委員長さんがおっしゃっているとおり市民の皆さんにしっかりと伝えていくことが大事であると思います。そして、市民の皆さんに実施に向けたご協力、ご支援を是非お願いしたいと願っております。最後に検討委員の皆様、パブリックコメントをいただいた市民の皆様に心からお礼と労いの言葉を贈りたいと思っております。

- 委員長 ほか質問、意見を求め、全員異議なく可決する。
- 委員長 議案第64号を上程、説明を求める。
- 体育課長 議案第64号新潟市スポーツ振興基本計画について、資料に基づき説明。
【説明概要】
新潟市スポーツ振興基本計画の最終案について説明。
- 委員長 質問、意見を求める。
- 山田委員 3ページの基本方針の(1)で、生涯に渡るスポーツの「渡る」が漢字になっているのですが、7ページではひらがなになっていますので、外部に出すものですから統一していただきたいと思っております。
- 山田委員 大変分かりやすくなりました。言葉も文章もばつさりと切って、読む人が分かりやすいということが、一番の印象です。特に7から8ページを見ますと、7ページの基本方針について述べているところで、「生涯にわたるスポーツ活動を推進する」として、非常に分かりやすい言葉で出しているわけですが、それが大事

なんだろうと思います。そして、それを受けてその基本目標で「スポーツとの楽しい出会いを演出する」とあり、アピールを込めて標記してあるというのは、非常に分かりやすく、またそれを受けて施策の方向で前期と後期というかたちになっていて、筋がきちんと通っていて分かりやすい表現になっていると思います。子どもたちの体力向上についても、力を入れているのが標記の上で良く分かり、良い計画ではないかと思います。

○白勢委員

この計画にも書いてありますが、スポーツとは体力の向上、健康の増進、精神的充実感という観点からも人が生きていくうえで、絶対になくってはならないものであると思っております。そのスポーツを現在新潟市の場合、週1回以上運動する人が15.9パーセント、これを平成26年には50パーセントに持ち上げようということです。すごい計画だと思っております。そして、到達目標の50パーセントを達成するために、健康面からは年代別、能力別にそれぞれの方向性を出しておりますし、丁寧にその方策も書いてあります。ぜひ、平成26年には2人に1人が週1回以上運動する、そういった生涯スポーツ社会の実現を目指してほしいと思います。競技スポーツでは、世界レベルの選手を出したいとありますが、ぜひ近い将来新潟市から出してほしいと思います。全体的には大変すばらしいスポーツ振興計画を作られたと思っております。

○小池委員

教育ビジョンと同様で、言葉で表現することは大変難しいなと思いましたが、それでも非常にうまく分析して全体的に総合的にスポーツの振興が図られるように、表現は良くなっていると思います。成熟社会になればなるほど、人々は芸術やスポーツに関心が深くなっていきますし、そういうことが体や心の健康のために必要になってくると思いますので、この基本計画に沿って市民のスポーツが盛んになれば良いと思いますし、先ほどの教育ビジョンと連携するものと思いますので、そういう意味では教育ビジョンの中にあるまちづくりに生かす生涯スポーツの推進というところの表現と同じようなかたちで、このスポ柳都計画がまとまっていて、連携が図られているということが良く感じられましたので、その点では非常に評価したいと思います。

○委員長

非常に多岐にわたってスポーツの大切さ、運動の大切さが描か

れていて、大変すばらしいものだと思います。昭和43年にスポーツと音楽都市宣言というものを新潟が行ったわけですが、おそらく皆さん忘れかけている時代ではないかと思しますので、この計画の持つ意味というのは大変大きなものがあると思います。特に子どもの体力が全国平均以下というような実態もありますので、教育問題とも絡んでおります。そうした子どもの体力の向上も、うたい込んであります。そういった意味でも、この計画の意義は大きいと思います。一方、まさに高齢社会でありますけれども、病気予防の観点から、健康、スポーツ、運動、そういったものとの関わりを広く知らしめなければならないと思いますので、そういった意味でも評価できると思います。競技スポーツについては、日本の野球が世界一になったという大変国民的な盛り上がりのある中でありますし、トリノオリンピックが開かれた年でもありますし、文理高校がベストエイトに上がったことでもありますし、大変タイミングのいい時にこれが出るということで、印象深いのではないかと思います。それから、既に準備がはじまりました新潟国体、今年の7月に正式に決定するそうではありますが、その準備委員会が実行委員会になる年でもあります。21年に国体が開かれるわけですが、それに向けてのひとつのパワーになるのではないかと大いに期待しております。問題は冬場のスポーツということをかねがね言ってきましたが、全国的に冬場のスポーツ施設が減っていく中で難しいだろうとは思いますが、そういった冬場のスポーツをやれる施設を整備する必要があるのではないかと思います。その点についても前向きな表現で触れられているというのは、心強い限りであります。こうした観点からこの計画は、計画で終わってはいけません。計画というのは何かを実現するために作るものでありますので、今後私共も全力で取り組んでいかなければならないと思っております。最後に新潟市のスポーツ審議会、スポーツ基本計画の検討委員会の皆様、ご意見をいただいたたくさんの市民の皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。ぜひ、これを実のあるものにしていきたいと思いますので、よろしく願います。

○委員長

ほかに質問、意見を求め、全員異議なく可決する。

第4 報 告

- 学校指導課長 万代高校1期生の進路状況について、資料に基づき報告。
【報告概要】
万代高校の1期生の進学先、就職先等について報告。
- 委員長 質問、意見を求める。
- 委員長 25パーセントの人がまだ進路が決まっていないということですか。
- 学校指導課長 はい、未定の生徒が約25パーセントいる状況であります。
- 委員長 学校指導課として、この1期生進路状況の結果の評価についてはどうですか。
- 学校指導課 学校指導課としては万代高校の先生方が生徒の進路意識を高めながら保護者や生徒の要望に沿ったかたちで授業を展開したり、研修を積んだりしている結果、非常に高い数値を示していると思います。また、万代高校の性格そのものが中学生に更に一層明確に伝わることによって自分の進路を実現するというところで、多くの中学生が万代高校に集まることを期待しておりますし、それによって進路状況について上向きの方になると考えております。
- 学校指導課長 平成18年度市立高等学校入学者選抜結果について、資料に基づき報告。
【報告概要】
万代、高志、明鏡の3校の入学者選抜結果について報告。
- 委員長 質問、意見を求める。
- 委員長 万代高校が難しくなったということが受験生に広まったということで、入試の平均点はどうですか。
- 学校指導課長 ただ今入試の平均点の資料は持っていませんが、やはりそういう傾向はあると思います。
- 委員長 倍率は低くなったけれども、入試のレベルはどうですか。

- 学校指導課長 倍率は低くなっておりませんが、レベルは逆に上がっていると聞いております。
- 歴史文化課長 花と遺跡のふるさと公園（史跡古津八幡山遺跡）内にある復元竪穴式住居の火災について、資料に基づき報告。
【報告概要】
3月28日に火災で焼失した竪穴式住居について報告。
- 委員長 質問、意見を求める。
- 委員長 火災の原因は調査中ということで、全くわからないのですね。
- 歴史文化課長 昨日、警察、消防署による現場検証がありましたが、全く原因は今のところ断定されておられません。
- 委員長 消防車が現場に到着してから放水するまで50分かかっていますが、これはどういうことですか。
- 歴史文化課長 山の広い範囲が史跡に指定されておりまして、50メートルくらいの高さの所まで登っていったところにありますので、そこまで行く道のりや、水が上のほうにありませんので、水を運んだりしてから消火活動にはいったということで、非常に時間がかかったということでもあります。
- 委員長 ポンプ車は行かなかったのですか。
- 歴史文化課長 ポンプ車は小さいものが行ったようなのですが、大きなものは入れる道路がありません。
- 委員長 損害はどのくらいですか。
- 歴史文化課長 平成5年に建てられたものなのですが、当時4～5百万円程かかったものです。
- 委員長 復元するとなると、もう少しかかりそうですね。
- 歴史文化課長 今、整備計画の中でいくつか復元しようと考えておりますが、

金額的にはもう少しかかるかもしれません。

○委員長 ニュースによれば夜間に入れないようにするという話もありましたが、どうですか。

○歴史文化課長 公園全体に入れないようにすることは、物理的に不可能でありますので、建物自体に夜は入れない工夫をするというようなことは、検討しなければならないと思います。

第5 閉会宣言

○委員長 午後3時30分、閉会を宣言する。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員